



日		時	記	録
月	日	時 間		
			<p>長及び数名の団員、吉水源三郎氏乗船する。 災害報告を栄宏丸無線を利用して次の機関に報告する。</p> <p>1. 報告先 岩手県知事。岩手県警察本部長。下閉伊福祉事務所長。宮古建設事務所長。 宮古県税事務所長。宮古保健所長。</p> <p>2. 報告文 本29日午後発生した山火事のため人家に延焼し、次のとおり被害があったから至急救助実施方願いたく報告する。</p> <p style="text-align: center;">記 (5月29日午後12時現在見込)</p> <p>住宅全焼 495戸 2,277人 人的被害 重傷 1人 軽傷 30人 山林被害 約 2,000町歩</p>	
		2.10	下閉伊福祉事務所佐々木由造主事来町する。	
		2.30	下閉伊福祉事務所長及び宮古保健所長以下係員来町する。	
		2.58	陸上自衛隊 100名到着す、ただちに1中校舎を宿舎にあてる。	
		3.10	NHKテレビ係員来町。壱内部落島山トヨ氏焼死した連絡をうける。	
		3.30	吉川主事災害報告より帰庁する。	
		4.10	罹災状況調査班罹災部落に係員出る。	
		4.15	久保田平之助氏壱内部落被害状況報告のため来庁する。	
		4.35	青野滝部落2戸、学校のみのかし全焼した旨、現地より帰る消防団員の報告で確認する。	
		6.25	平坦部落連絡員召集。仮避難所設営にあたる。設営完了7:50	
		6.30	摂待よりの電話で畑部落全焼したことを確認する。	
		8.00	陸上自衛隊罹災地に出動する。	
		10.00	臨時町議会開催。	
		10.10	田老消防団第4分団員乙部野え延焼のため出動する。	
		10.12	宮古県税事務所長、下閉伊教育事務所長来町する。	
		10.30	宮古病院より救護班来町する。	
		15.35	日赤より救護班来町する。	
		20.30	救助隊打合、各課より1名警備につき他職員休養する。	
6、1		9.00	鉾山地区え自衛隊用幕舎借用依頼あり、県地方課え要請した。	
		15.45	小堀内罹災地整理完了、自衛隊引上げる。	
		17.00	火災一応おさまる。	
6、2		16.40	田老第2小中学校児童生徒分宿完了。真崎ロッジ仮校舎にあてる。	
		20.00	陸上自衛隊感謝状贈呈式。	
6、3		6.30	陸上自衛隊帰隊。	
		17.00	災害救助隊田老分隊解く。	
		20.00	全職員打合会。	
6、4		17.00	消防団非常体制とく。	

## あ と が き

「災害は忘れたころやってくる」という言葉がある、しかし現世には通用されなくなってきたようである。忘れるどころか、なまなましい、きおくのうちに、又しても吾々に災害がやつてきたのである。

津波の代名詞で、とおった田老町が、こんどは非情な火の洗礼をうけたのである。全町3分の2を焼失してしまうという、近世にない大災害である。

このとき、その記録をまとめ、将来への資料とすべく、本書を編集した。

編集にあたり各新聞社又は梅田盛岡気象台長殿より貴重な写真、資料の提供をうけたことに対して、心からお礼申し上げます。 (吉水)

S 36. 9. 1. 発行

S 36. 8. 10. 印刷

## 大 火 (非売品)

発行人 田老町長久保利七

編集人 課長補佐吉水清人

発行所 田老町役場総務課

宮古市末広町

印刷所 株式会社 イトウヤ印刷所